揖斐川流域五流総地域委員会（第７回）議事概要

日時：平成 30 年 7 月 25 日（水）14:00～16:00
場所：西濃総合庁舎４階大会議室

１．議事

○　会議統合と規約の改正について
○　平成 30 年７月豪雨について
○　「近年の水害を踏まえた水害対策の方向性」について
○　「揖斐川流域における総合的な治水対策プラン」の進捗について
　１）ハード対策（河川整備、耐震化、長寿命化）
　２）ソフト対策
○　危機管理型水位計の活用及び大規模浸水想定区域を想定した避難の考え方について

２．議事要旨

○会議統合と規約の改正について
　事務局より、水防法の改正に伴った、“新五流総地域委員会”と“水防災協議会”の統合の在り方、統合後の開催方針について説明があり、了承が得られた。

○平成 30 年７月豪雨について
　事務局より平成 30 年７月豪雨について説明があり、質疑がなされた。質疑応答の主な内容は以下のとおりである。
・　津保川の被害について、地形的な特性は関連ないか。雨に加えて、流下能力など、他に被害が大きくなった原因はないか。
　→　3 時間に 160mm～170mm の雨が集中して上流に降った結果、川の水も集中したと推測される。河道は整備されているが県管理のため、1/10 や 1/20 程度の安全度である。
・　避難指示など警報について改善の余地があるのでは、今後検討予定はあるのか。
　→　現在検証中である。今後検証結果を踏まえて、報告する。
・　線状降水帯には、地形が影響することはあるのか。
　→　線状降水帯は、地形によらず発生することが確かめられている。ただし、地形によって降雨強度が強まる可能性はある。

○「近年の水害を踏まえた水害対策の方向性」について
　事務局より近年の水害を踏まえた水害対策の方向性について説明があり、質疑がなされた。各項目について交わされた質疑応答の主な内容は以下のとおりである。
・　“被災者 0 に向けて”とタイトルがなっているが、“被災者 0“の定義は何か。
　→　最低限、人の命を守ることを前提としている。

・　情報提供については、情報が届かないことや情報を入手してもどのように利用したらいいかわからないのが課題なのではないか。情報の利用に関連するが、その

地域の災害に関する言い伝え・伝承を地域住民の方から収集してみてはどうか。地元の人の情報はリアリティがあってわかりやすく、行動に繋がりやすいのではないか。

→　各市町村の情報伝達手段や取り組みについては別紙３にて記載している。取り組みについて情報を共有し、進捗管理するのもこの委員会の主要な目的である。

○「揖斐川流域における総合的な治水対策プラン」の進捗について

事務局より揖斐川流域における総合的な治水対策プランの進捗について説明があり、質疑がなされた。各項目について交わされた質疑応答の主な内容は以下の通りである。

・　主なソフト対策の一つとして、大垣北高等学校に雨水貯留施設を設置したことが記載されているが、これは施設のように思えるがソフト対策なのか。

→　実態としては、ハード施設の整備だが、河川管理者の実施事業ではないので、便宜上、ソフト対策と位置づけている。

・　各市町村の情報伝達手段について、共通する良い取り組み、課題を抽出してほしい。

・　津屋川の改修で、実施しなければならないのは浚渫ではないか。

・　輪之内町の浸水被害軽減地区の指定はとてもよい取り組みだと思う。

○「危機管理型水位計の活用及び大規模浸水想定区域を想定した避難の考え方」について

事務局より危機管理型水位計の活用及び大規模浸水想定区域を想定した避難の考え方について説明があった。特段の質問や意見はなかった。